

リンゴのクワコナカイガラムシ及びナシマルカイガラムシの同時防除

(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所では、リンゴのクワコナカイガラムシ及びナシマルカイガラムシが、残効性の長いアプロードフロアブルによる「展葉1週間後頃」の散布により同時防除できることを明らかにしたので紹介します。

☆技術の概要

- クワコナカイガラムシでは、前年の発生が多い園地において、アプロードフロアブルによる「展葉1週間後頃」のスピードスプレーや散布が、越冬世代幼虫に対して、従来の手散布2回とほぼ同等の防除効果があることが明らかになりました(図1、表1)。これにより、手散布の労力を軽減することができます。
- ナシマルカイガラムシでは、前年に果実被害が発生している園地において、「展葉1週間後頃」のアプロードフロアブル散布が、越冬世代幼虫に対して従来の方法よりも防除効果が高いことが明らかになりました。(図2、表2)。

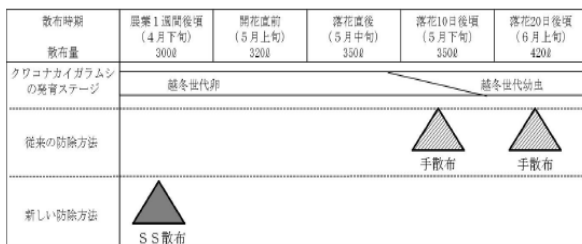


図1 防除方法の比較(クワコナカイガラムシ)

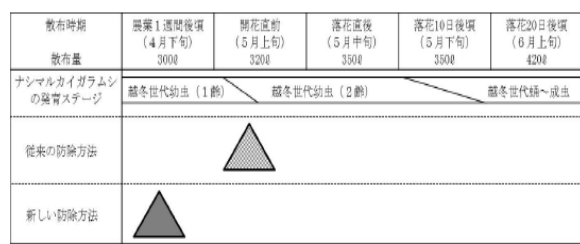


図2 防除時期の比較(ナシマルカイガラムシ)

表1 アプロードフロアブルのクワコナカイガラムシに対する効果 (平成26年 青森りんご研)

区	散布時期(月日)	散布方法	越冬世代卵のう数	第1世代卵のう数
アプロードフロアブル1,000倍 +マシン油乳剤200倍	展葉1週間後頃(4/25)	SS	30	9
スプラサイド水和剤1,500倍+展着剤	落花10日後頃(5/26)	手散布	30	5
ダーズバンドF3,000倍+展着剤	落花20日後頃(6/6)	手散布	30	5
無散布	-	-	30	90

(注) 1 24年生「ふじ」/M.26を1区3樹供試し、5月12日に越冬世代の卵のう10個を埋め込んだ接種用バンドを1樹当たり1本巻き付けた。各区の散布時期に合わせて薬剤散布を行い、6月6日に接種用バンドを取り外し、6月18日に第1世代の卵のう採集用バンドを1樹当たり3本巻き付けた。7月24日に採集用バンドを取り外し、バンド下やバンド内に産下された第1世代の卵のう数を数えた。なお、マシン油乳剤としてスプレーオイル、展着剤としてマイリノール10,000倍を用いた。

2 本試験では「落花20日後頃」にダーズバンドFを使用した。現在、本剤の年間使用回数は年1回なので、基準薬剤に採用している「展葉1週間後頃」以外の時期にダーズバンドFを使用できない。

表2 アプロードフロアブルのナシマルカイガラムシに対する効果 (平成25年 青森りんご研)

区	散布時期(月日)	越冬世代死亡率%	第1世代寄生果率%
アプロードフロアブル1,000倍+マシン油乳剤200倍	展葉1週間後頃(5/2)	100	0
アプロードフロアブル1,000倍+展着剤	開花直前(5/17)	95.3	2.8
無散布	-	32.3	68.1

(注) 25年生「ふじ」/マルバカイドウを1区9~10樹供試(うち調査樹は各区3樹)し、各区の散布時期に合わせて手散布で薬剤散布を行った。6月6日に各調査樹から越冬世代幼虫が寄生している2年枝を3本採取し、実態顕微鏡下で無作為に100個体について生存虫数及び死亡虫数を計数した。また、7月24日に樹上の果実における第1世代幼虫の寄生果数を調査した。なお、マシン油乳剤としてスプレーオイル、展着剤としてマイリノール10,000倍を用いた。

☆活用面での留意点

- 農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認して、使用者責任のもとで使用して下さい。「農薬情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/)「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)
また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更された農薬は、登録前の変更であっても、変更後の使用方法で使用してください。
- 詳細については(地独)青森県産業技術センターりんご研究所病虫部(0172-52-2331)にお問い合わせください。

(農研機構果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 大崎 秀樹)